



# 日本医療福祉生活協同組合連合会

## 東日本大震災支援ニュース No.28

(2011年3月30日 19時現在)

### 会員生協の皆さまへのお知らせ

東日本大震災の発生に伴う会員生協の入院患者・要援護者等の受け入れ緊急調査へのご協力をお願いします。

回答いただいた医療福祉生協	34生協
入院受け入れ可能ベッド数	127ベッド
要援護者受け入れ可能数	35人
一般住民受け入れ可能数	35人

(3月30日現在)

### ○震災関連マスコミ懇談会、藤谷専務が参加

3月24日14時～15時30分まで、震災関連マスコミ懇談会が行われました。この懇談会は、全国保険医団体協議会が定期的に行っている記者懇談会を拡大したもので、11社12名が参加。藤谷専務理事は、全国の医療福祉生協の支援について報告。3月23日現在50生協から医師100名、看護師134名など計440名が支援に参加していること、物資の支援では、30生協からトラック51便で150トンの水や食料、ガソリンなどが届けられていると述べました。また、記者団の質問にこたえて、甲状腺や透析などの医薬品が不足していること、現地では電気や水の復旧の見通しや原発事故などに関する情報がほとんどはっていないことなどを報告。

### 被災地の医療福祉生協の状況

#### ○八戸医療生協



地震で被災された組合員訪問が続いています。参加した職員は「訪問した住宅は大体掃除などもゴミの回収が終われば、見た目は以前に戻れるように見えた。しかし、その隣近所ではまだ避難生活をして片付けもまったく出来ていないお宅もあり、道路端では津波で上がったヘドロの粉塵が風にあおられて舞い上がっていて、道路の清掃等行政の支援もまだまだ必要だと感じた」との報告。(29日付、地域訪問活動報告)

## ○松島医療生協

松島医療生協組合員の皆さんに向けた組合員訪問用のチラシ「大震災に負けないニュース」の発行をスタート！

「大震災 20 日となりました。全国の仲間とともに、組合員さんの訪問を開始しました。何かお困りのことはありませんか？ 病気・健康・生活のことでお困りのことは、我慢しないで、すぐにご相談下さい。私たちのできることで、皆様とご一緒に努力して参ります。お気軽に、声をかけてください」

### 松島海岸診療所（医科）

- 毎日 午前中（9:00～12:00）診療。  
午後は往診、訪問診療。
- 4月4日以降は、午後診療（月・金）も開始予定。

### 松島海岸診療所（歯科）

- 毎日 午前（9:00～12:00）、  
午後（13:30～16:30）の時間、急患診療しています。

### 通所リハビリ（おたっしゃデイ）

- 3月30日から一部サービス開始。  
（震災被害でまだエレベータが動きません。4月半ば改修見込み）

### 訪問介護相談センター

- 海岸診療所に場所を移して業務再開  
（3月30日付大震災に負けないニュースNo.1より）

## ○福島医療生協

達南ブロック（川俣支部・飯野支部）でブロック会議を開催しました。両支部とも炊き出しや健康面での気遣いを含めて、地元の避難所への支援活動を行っており、避難所や地域の様子について交流しました。今後の医療生協としての活動について、まず班会を開いて地域の状況を出し合いやれることを考えていくこと。その中で、多くの人々が関心を持ち不安に思っている放射能と健康について、斎藤紀先生が23日に二本松市でおこなった講演DVDを活用して学習していくことで意志統一しました。

（3月29日付、東日本大震災対策ニュースNo.14より抜粋）

## ○郡山医療生協



29日、新潟支援物資センターに集約されていた支援物資が到着（写真左）。衣類、経管栄養剤、紙おむつ、レトルト食品など。送り主は、北医療生協、福井医療生協など全国から。浜北医療生協と富山医療生協から送られた軽油をフル活用。

大型バスで、浜通り医療生協へ水やマスクなど衛生材料、福島中央市民には、経管栄養剤を搬送。宮田専務ら役職員の元気も一緒に運ぶ（写真右）。（30日付郡山医療生協対策本部ニュースNo.14）

30日、医療福祉生協連から届いた入れ物にガソリン40リットル、灯油200リットルこちらはポリタンクで早速、浜通り医療生協に届けます。浜通りも病院の近くのスタンドが給油を始めたとのことで改善の兆しが出てきたようです。

## ○福島中央市民医療生協

震災による建物の修繕について、法人が加入する火災共済の保険給付対象になることが判明。修繕の見積もりを各事業所に呼び掛け。

(3月30日付地震対策本部日報 vol.16 より一部抜粋)

## 支援状況

### ○はるな生協

高崎では、六郷長寿センター、佐野長寿センター、牛伏ドリームセンターで100余人を受け入れています。多くは福島から自主避難し、高崎市役所に保護を求めた方たちです。高崎では、座布団6枚と毛布2枚しか支給せず、避難所でのプライバシーも保護されていません。食事の負担金を徴収。29日に緊急の対市懇談を行い、被災者の立場に立った受け入れを要請。また、法人としても、ボランティアや健康相談の支援が可能なことを伝える。(3月30日付東日本大震災支援ニュースNo.4 より抜粋)

### ○医療生協さいたま



埼玉県生協連からさいたまスーパーアリーナ周辺での炊き出し支援要請が26日に提起されました。急なこともあり支援は難しいかと思われましたが、組合員理事、職員を中心に月曜日7名、火曜日6名が駆けつけました。「温かい食事を」と味噌おでん、フランクフルトを提供しました(写真)。

秩父生協病院の秩父ミュージックパークへの訪問行動を知り、秩父市立病院・市役所・地域包括センターから「一緒に訪問させて欲しい」との申し出があり、話し合いの場を持ち、

以下を確認しました。

- ①毎週の看護師・保健師による健康相談(市役所の職員や専門職を配置)
  - ②入居時の問診の徹底により、被災者の要求に応えられるような支援をすること
  - ③医療・介護が途切れないように支援すること
  - ④相談を受けた内容を引継ぎし、途切れないように連携すること
- 行政や地域の病院との新たなつながりが生まれています。

(3月29日付、東日本大震災対策本部ニュースNo.19等より一部抜粋)

日経スペシャル「ガイアの夜明け」3月29日放送第461回「ライフラインを守れ! ~震災支援19日間の総力戦~」の【生命の危機に立ち向かえ!】のコーナーで医療生協さいたまが登場。

日経スペシャル「ガイアの夜明け」テレビ東京 URL はこちら↓  
<http://www.tv-tokyo.co.jp/gaia/backnumber/preview110329.html>

## ○西都保健生協



西東京支部は 27 日、支部事務所を会場に 26 人の組合員スタッフで「被災者支援春のふれあいバザー」を行いました。60 人ほどの来場者がありました。材料費を引いた利益 6 万 1221 円を義援金にします。前日までにバザーのチラシ 1800 枚を手配り。非組合員の方も品物の提供で来てくれたりするなど、大勢で賑わいました。(3 月 30 日付、明るいまちづくりニュースNo. 44)

## ○川崎医療生協

第 5 次支援チーム責任者の医師からの振り返り報告が寄せられました(一部抜粋)

「25 日、地域訪問に出ました。支援が行き届いていない本当に小さな避難所。1 体育館あたり 10 人規模のところもあります。2 ヶ月の子供が、沐浴もできずに経過。若いお母さんはやや育児放棄。同じくらいの赤ん坊がいる家族もいました。こちらの家族は『お風呂は使えるが、家にひびが入ってきているため避難している』と。

こちらの家族に頼んで、子供だけでもお風呂に入れるよう仲立ち。研修医を中心に素晴らしい支援ができました。現在は、急性期医療の医療は落ち着き始めており、継続的な医療が求められてきていると思います。

毎日違う支援者が避難所に行くので「昨日持って来てくれると言っていた物を、今日、持って来てくれなかった」などの問題が起こっています。今後は長期的な滞在(最低 1 週間)をした上で、継続した支援が必要と感じました。

また医療と同時に日常のケアや、今後の生活の相談などが求められてきています。医療者、特に医師は医療以外の活動が求められる機会が増えています(3 月 30 日付大震災対策ニュースNo.23 より)

## ○医療生協かながわ

戸塚病院健診事務センター荻生雄毅氏の現地支援レポート「衛生面においてはドライシャンプーや足湯、仙台駅からの温泉地への日帰り有料送迎、ビジネスホテルやフィットネスクラブのシャワールームの開放、自衛隊の入浴施設などが各所で展開されていますが、それらに自ら赴く事の出来ない高齢者の方は 2 週間入浴出来ない状況が続いており、またそのほかにも、長期化にともなう避難生活からのストレスなどが散見し始め、福利厚生などの観点に立った医療的アプローチが求められる段階に現状シフトしている様に感じられました(3 月 30 日付『東日本大震災』対策本部ニュースNo.24 より抜粋)

## ○けいはん医療生協

3 月 22 日、街頭募金・支部で集めた募金や事業所で集めた義援金などを合わせて 140 万 8172 円を医療福祉生協連に送金。3 月 29 日は守口駅で、30 日は古川橋駅で募金を実施。

## ○西成医療生協

皆さまから寄せられた「東日本大震災」緊急支援募金 1 万 2840 円（第 9 便）を 30 日、医療福祉生協連の口座に送金。これまでの送金合計は、116 万 7902 円に。

## ○尼崎医療生協



第 6 次救援物資が 28 日に出発し、医療福祉生協連の「新潟物資支援センター」に 29 日に到着しました（写真）。今回の救援物資は、組合員（患者）さんから寄せられたラコール 213 個をはじめ、紙おむつ、生理用品、粉ミルク、缶詰やレトルト食品など 12 箱。いずれも現地で入手できず、要望の高い物資でした。

尼崎医療生協グループの義援金は 458 万円に到達しています。（3 月 30 日付東日本大震災救援ニュースNo.14 より抜粋）

## ○姫路医療生協

宮城県塩釜市の支援拠点病院を中心に活動する藤田看護師の報告「高齢者福祉施設『宮城野の里』へ。震災当日からのデイ利用者などが帰宅できず 24 時間利用している状況だった。当施設はパーキンソンや認知症など避難所生活が困難な方の福祉避難所としても機能」「施設では入所者の介助や支援物資仕分などの避難所環境整備を担当した。余震や環境の変化で不安を訴える方や不穏行動も多くみられ、精神面のフォローが重要」（3 月 30 日付東日本大震災姫路医療生協支援ニュース 5 号より抜粋）

## ○鳥取医療生協

3 1 日に第 5 次医療支援チームとして薬剤師 1 名、看護師 2 名、看護助手 1 名の合計 4 名が宮城県へ出発予定。（3 月 29 日付、支援本部ニュースNo.26 より抜粋）

## ○広島中央保健生協



生協さえき病院玄関前で壮行会后、29 日夕方、第 2 陣が出発。第 2 陣は生協さえき病院院長、看護師長、福島生協病院の検査技師の 3 名。RCC（中国放送）の取材が同行。

（3 月 31 日付支援対策ニュースNo.15 より抜粋）

## ○ひかわ医療生協



28 日、宮城県塩釜市の支援拠点病院などへ第 1 次支援チームとして看護師 1 名、介護福祉士 1 名を派遣。

（28 日付東北関東大震災支援ニュース②No.3 より抜粋）

## ○徳島健康生協

第3陣として医療支援に向かっていた医師1名・看護師1名が、29日夜に無事帰着。約10人で出迎え、労をねぎらう。

組合員が、軽トラックで震災支援野菜販売カンパ活動に奮闘しています。今後、人的支援とともに物資を運搬するため、とくしま生協のトラックを借り、浜通り医療生協に水・野菜を運ぶ準備。給料日を過ぎ、職員から続々と義援金が寄せられる。

(3月30日付楠藤専務理事からのメール報告)

義援金総額 (3月30日現在)  
4017万3374円 (30生協、個人、事業者)

### 医療福祉生協連は義援金口座を開設しています。

災害義援金口座は次のとおりです。

(専用口座)

三菱東京UFJ銀行(0005)原宿支店(店番627)

普通預金 0041240

日本医療福祉生活協同組合連合会 東日本大震災義援金口

※振込元に生協名を入れてください

寄せられた義援金は地方公共団体、公的機関等を通じて被災した地域への支援に使われます。義援金についてのお問い合わせは担当(椎野)までお願いします。

担当: 江本 (at\_e@hew.coop)・丸山 (kj\_m@hew.coop)

電話: 03(4334)1580、FAX: 03(4334)1585